



「不屈」
No.601付録
高知県版No.446
2024.7.11
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
高知県本部

発行責任者
森岡 幸一
TEL・FAX
088-841-0075

第39回高知県本部総会開催

ランチ会開催など盛んに なってきた女性部の活動

県本部総会が6月22日、草の家で18名が参加して開催されました。

初めに、この一年で亡くなられた4名の会員の方々に対して黙とうを捧げました。続いて議長と書記が選出され、岡村会長が



熱心な討論がおこなわれた総会



あいさつする
岡村会長

あいさつ。次に日本共産党県委員会書記長である佐藤彰氏からの来賓挨拶を受けました。そして同盟中央本部の吉田万三会長のメッセージと全国大会での「戦争する国づくりに」反対する特別決議が報告され、議事に入りました。

活動報告では、顕彰活動として獄死した犠牲者、筒井泉吉・黒原善太郎の没後90周年の墓前祭と追悼の講演会を実施したことが報告されました。(筒井泉吉・享年20才、黒原善太郎・享年26才)

年間を通して平和資料館・草の家と共同で顕彰活動を行っており、今年 は自由民権記念館で笹の墓標展示会を開催しました。

幹事会で重視している課題として、この運動の担い手をどう増やすかというのを心がけていることが報告されました。

不屈に生きた土佐の同志 信清高明

ペンネーム木山喬。1908(明治41)年1月20日高知市中新町で、父権馬、母銀子の3男に生まれる。慶應義塾に学び、野呂栄太郎の門下となる。のち病氣により帰郷。



信清高明
(高知市中新町出身)

1932(昭和7)年1月弟悠久らの組織していた日本プロレタリア作家同盟高知支部に加入。またプロレタリア科学者同盟、同美術家同盟の支部結成に参加する。

2月日本共産青年同盟高知地区の同盟員となり、3月共青高知地区委員会が構成されたさい、ゴップ(日本プロレタリア文化連盟)フラクションのメンバーとして参加。「プロレタリア文学講習会」で「高知県芸術運動史」を講義する。

4月共青高知地区拡大地区委員会でアジプロ部の調査部県内係のキャップとなる。4月21日の一斉検挙を逃れて北海道に行き、1933(昭和8)年6月26日、北海道虻田郡倶知安町で病没。享年26才。



女性部の活動について
報告する秦愛県議

こと、女性部と連携してランチ会を推進すること、講演・学習会の定例化を

図ることが提案されました。続いて23年度決算報告があり、監査報告では会費収入が納入率70%と低いことが指摘され、改善を求められました。24年度予算案は10万円ほど減額となりました。

最後に、今年度の会長に岡村正弘、事務局長に森岡幸一ほかの幹事を選出して議事は終了しました。

榎村浩碑前祭

「新たな戦前」に正しく 抗わねばと心を新たに

森本 琢磨

20名以上が参加した
榎村浩碑前祭



去る六月一日、筆者は、高知市の城西公園で開催された「第四回榎村浩(まさむら・こう)碑前祭」で司会を担当した。このイベントは、戦前の高知で反戦を訴えた詩人・榎村浩を顕彰すべく、その誕生日である同日に毎年、「平和資料館 草の家」が実施しているものだ。同公園に建つ榎村の詩「間島バルチザン」の歌が刻まれた碑の前に市民が集まり、戦前日本の侵略戦争と暗黒政治に抵抗した先人に想いを馳せる日である。

日本国内に暴虐をふるった戦前、高知には「この戦争は間違っている」と訴え続けた

青年たちがいた。榎村もその一人であり、彼は、反戦の詩を書くことで、国策の過ちを鋭く非難した。しかし暴走した権力は榎村を捕縛し、拷問の末、その命をわずか二十六歳で奪うこととなる。

碑が建つ城西公園には、明治の初めから一九七六年まで高知刑務所があり、ここに榎村も収監された。榎村の生涯を描いた一九七八年公開の映画「人間の骨」では、この刑務所跡地(すでに刑務所の機能は移転していたが、建物は残っていた)がロケに使われている。



人間の骨

碑前祭は、午前十一時からスタートした。最初に、「草の家」の岡村正弘館長から挨拶があり、その後、岡山から来られた牧師・

宇賀充(うか・みつる)氏のお話があった。元看守という経歴を持つ宇賀氏は、榎村の歌碑の北にある小津高校前の家で生まれ、榎村の収監されていた高知刑務所は身近な存在だったという。また、榎村の歌碑の近くに建つ「日中不戦の碑」が一九九二年に造られた際は除幕式に参加し、カンパもしたが、この時は歌碑の存在を知らなかったとのことだ。宇賀氏は今回の参加に当たり、「人間の骨」の原作小説(作:土佐文雄氏)を読み、榎村の生涯に想いを馳せたという。

宇賀氏の話の後、女性三人による榎村の詩「生ける銃架」の朗読が行われた。この作品は、「日本プロレタリア作家同盟高知支部」に入っていた榎村が、「満州事変」勃発の翌月に当たる一九三一年十月に書き上げたものだ。日



女性3人による榎村浩の詩「生ける銃架」の朗読

本帝国主義が大陸への侵略を深める中、戦争に駆り出される日本兵たちを「生ける銃架」という言葉で表現したこの詩は、国の誤った外交政策を告発するものであった。



碑前祭には二十名以上の市民が参加し、榎村の遺徳を偲んだ。榎村らの命を奪った「戦前」は、今、確実に新たな形で繰り返されようとしている。私たちは、それに正しく抗わねばならないと心を新たにした碑前祭であった。

第41回国賠同盟全国大会

全国大会で感じた自由と
平和、民主主義への熱気

高知県議会議員 はた愛

6月19～20日に東京・全労連会館で開催された第41回全国大会に、森岡事務局長とともに参加してきました。参加は初めてでしたが、熱心に活動している全国の仲間の活動



大勢の参加者で埋め尽くされた会場の全労連会館

を身近に知る事ができ、私自身、改めてパワーと知恵を頂きました。全国大会へ送って頂きました、県本部や会員の皆さんには感謝を申し上げます。

今年の全国大会は、岸田政権による戦争国家づくりが進む中で開かれた、歴史的にも大事な分岐点ともいえる大会でした。

岸田政権は軍事費をGDP2%に引き上げると発言し、武器の輸出や戦闘機を爆買いするなど、バイデン米大統領には褒められていますが、GDP2%とは約12兆円であり、世界で第3位の軍事大国になるといふ事です。憲法9条を持つ国として、なんたることでしょうか。自公政権は「安保3文書」

のもと、まともな議論をしないまま閣議決定だけで一気に戦争できる国家へと突き進んでいます。加えて、6月23日に閉会した国会で強行されたのは、米軍と一体となる「統合作戦司令部」設置法や特定秘密保護法を経済安保に拡大する、経済秘密保護法の整備などです。

これを立憲民主党までもが賛成し成立させたことは、危険で異常な政治情勢だと言わなければなりません。

これに対し、同盟の果たす役割は何か。活動に必要なことは何か。各県の報告や記念講演を通じて深めることができたと思えます。



来賓あいさつをする日本共産党の山添拓参院議員

全国同盟の会員は一万6934人、内女性会員は4188人で女性は全体の約25%を占めます。中でも北海道が1300人の会員目標を達成、前回大会比で会員を増やした県は16県です。一方で会員を減らしたのは30県あり、高齢化などにより活動の縮小があったと言います。

その中で希望に思ったのは青年支部の活躍です。27県で行ったアンケート調査からは40歳以下の会員が1600人ほど存在しています。中央本部も「同盟とはなにか」を語れるようにと定価500円の学習テキストを作成したと報告しました。

沖縄県からの報告では、沖縄県議選で自民党は軍拡問題には触れず、生活苦を玉城デニー知事の責任にするものだったと紹介、また沖縄の自衛隊のHPに沖縄戦の司令官の辞世の句を掲載し、沖縄

戦で亡くなった住民を「散花」(花卉が散るように美しく死ぬこと)と美化したと怒りを語りました。

会員を増やし続けている北海道からは、きっかけは道大会で目標をやりきると意思統一をし、自分が増やさなければ人には言えないとの思いで取り組んできた、団結の大切さを訴えていました。

中央本部の国際部からは、国連の人権委員会へ出向き、日本の実態を報告する活動をしているが、その取り組みが現場で活かされているだろうか。他の国々との連帯が必要であり、アジアで連帯するため、法律家を招き、人権問題をテーマとした枠組み、東京コラップへの参加を考えているとの提起がありました。また、各同盟ブロックから国際部に人を出して欲しいとの訴えもありました。

【4面につづく】

